

佐橋牧場

放牧で大きく強い乳牛改良 高泌乳牛群の実現

経営概要

所在地	山越郡長万部町
家族構成	本人、妻、長男
経営面積	70ha（放牧地 10ha、採草地 60ha）
飼養頭数	100 頭（経産牛 60 頭、育成牛 40 頭）
飼養形態	タイストール牛舎
生産乳量（出荷乳量）	660t/年
1 頭当たり平均年間乳量	11,789kg
放牧類型	大牧区、日中放牧
放牧期間	5月上旬～10月 7:30～16:30
圃場植生	放牧地 オーチャードグラス・ペレニアルライグラス主体、 白クローバ混播 採草地 チモシー主体、白クローバ等

放牧の導入と変遷

佐橋牧場は現在の経営主である茂氏が経営継承した昭和 49 年から放牧形態を取り入れた経営をおこなっている。当初は牛が一日で牧草を食べ尽くすストリップ放牧形態をとっていたが、牛群管理の負担が大きかったことから、徐々に牧区を減らしていき、現在の 2 牧区（3・7 ha）での日中放牧形態となった。

以前はデントコーンサイレージを併給していたが、ヒグマによる食害が多発したため、平成 29 年からデントコーンの栽培を中止した。コーンサイレージ併給の中止後は、代替でビートパルプをそれまでの 1.5～2 倍増給し、配合飼料を CP18%から 15%のものに変更する等、適切な飼料設計をおこない、結果として産後疾病や蹄病の発生が減少したとのこと。月に 2 回、超音波診断法による妊娠鑑定をおこない、発情見落としの低減などに務めている。

基本的には日中放牧だが、猛暑期には昼間に舎飼い、夜間に放牧をおこない、牛への暑熱ストレス軽減や病気の発生を抑制している。放牧酪農に感じるメリットは、牛にストレスがかからず、疾病等の予防に繋げることができることや、糞尿処理に係る労働負担を軽減できることだという。

施肥管理については、化学肥料をほとんど使用せず、放牧地に石灰を散布する程度であり、採草地で収穫された牧草は全てロールサイレージにしている。

乳牛改良による高泌乳牛群づくり

佐橋牧場の特長と言えるのが、平均個体乳量が 11,000kg を超えていることである。

放牧酪農を実践しているにも関わらず、高泌乳牛群をつくることに成功している。その背景にあるのが、茂氏が力を入れている乳牛改良にある。茂氏は主に牛の体型を重視して改良をおこなっており、放牧経営を実践していることもあって、足腰の強い体の大きな牛を生み出すことができている。牛群体型審査において 84.5 点という高得点も獲得し、渡島管内で初となる個体乳量 20,000kg 超の牛を算出する等、改良の成果はめざましいものとなっている。



佐橋牧場



放牧風景

地域や酪農業界への貢献・後進の育成

茂氏は地元の渡島北部地区で指導農業士を務めており、自身の酪農経営以外でも活躍している。

毎年、酪農ヘルパー研修生や農業体験希望者を受け入れ、担い手問題への対策に尽力しているほか、乳牛改良同志会でおこなわれているジャッジング研修や、放牧酪農研究会の研修において現地指導をおこなっており、地域の酪農家にとって模範となる優良な酪農経営を実践している。

これらの道内や地域における活躍に加え、第7回全農酪農経営体験発表会においては優良賞を獲得するなど、その経営は全国的にも高く評価されている。

取材日：平成 29 年 9 月 1 日

連絡先：渡島農業改良普及センター渡島北部支所

電話：0137-62-2496